

公共事業における市民参画（PI）の実践スキル 第4回PI講習会

主催：（財）計量計画研究所

日時：2008年7月1日（火）

場所：弘済会館

当財団では、社会貢献事業の一環として、従来から蓄積してきた参画型計画策定プロセス（PIプロセス：パブリック・インボルブメント）に関する知識・技術の普及に寄与するため、2005年からPI講習会を開催してきています。今年度も、7月1日弘済会館において行政担当者の方を対象に開催しました。

近年、道路等の基盤施設整備や環境政策などにおいて、計画策定のプロセスに市民の参画を求めることが一般的となってきましたが、円滑に業務を推進していくためには、市民が計画や政策を十分に理解し、納得することが大切です。対話の仕方、会議の運営、プロセスの組み方など参加の場面によって、要請される実践的なスキル（技能）は様々です。

本講習は、米国連邦道路局PI講習会をベースに、日本初のPIトレーニングコースとして2002年に開発され、国土交通大学をはじめ、地方整備局、県、市町村で、行政職員を対象に、PI導入の際の担当者スキルアップとして、これまでも多数実施されて

います。

PIの基本的な考え方、実務を行う際に参考となる市民とのコミュニケーション手法や最新事例を具体的に紹介することに加え、参画型行政に求められる先端的スキルを体験学習できることが特徴となっています。



写真-1 講習会での演習の様子

公共事業における市民参画（PI）の実践スキル PI講習会の講習内容

1. PIとは
PI（パブリック・インボルブメント）発展の歴史的背景や国や自治体での取り組み状況なども交え、参加型プロセスであるPIの基本的な考え方を学びます。
2. コミュニケーション理論
PI型のコミュニケーションの基礎となる理論と共に、信頼を構築するための考え方やPIに取り組む姿勢について学びます。
3. 聴く技術・再構築とファシリテーション
コミュニケーションの理論を実践に結びつける対話の技術を、1対1で他者の話を「聴く」ための基本的テクニックと会議や集会の場を司会進行するファシリテーションの両面から学びます。
4. 場のデザイン
代表的なPIツール＝参加の場や道具立てにはどんなものがあるかを、運営上の配慮点や工夫と共に国内外の事例に基づいて学びます。
5. プロセス設計
PIを前提とした計画プロセスの理論、設計手法、推進体制づくりなどを、従来型のプロセスとの比較や事例を通じて学びます。
6. ふりかえり
1日の研修で印象に残った事柄、疑問に残っている事柄をふりかえり、疑問点には講師からの応答を行うことで習熟度を高めます。

（企画室 中川 裕二）